

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

|       |  |        |      |
|-------|--|--------|------|
| 研究課題名 | ガス分子を介した新しい生体制御機構の学際的アプローチによる解明と医学への応用 | 研究代表者名 | 末松 誠 |
|-------|--|--------|------|

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア( ) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
新しい分野であり、重要である。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ( ) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
大きく発展し、初期の予想を一部越える成果も見えている。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
一部、期待された以上の成果も挙げている

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア ( ) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
学際的な研究者集団によるチームワークが良くとられている。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア ( ) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

| 該当欄 | 評価結果   |
|-----|--|
| A + | 当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                 |
| A   | 当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる             |
| B   | 当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                   |
| C   | 当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

##### 総合的な評価意見：

質量分析計による極性分子のメタボローム解析と、シミュレーション手法を組み合わせ、ガス状分子の機能や低酸素の解糖系への影響を中心に興味ある成果を挙げている。生化学者、物理化学者、情報科学者などの学際的研究の発展も着実な進展を示している。代謝をシステム的に見ていこうとする新しい学問の創成が期待できる。残りの研究期間も考慮し、より集中すべきテーマの選択が必要となろう。